

内容

- ・特集：「家畜疾病図鑑Web」の作成と公開
- ・平成25年病性鑑定実施状況について

特集「家畜疾病図鑑Web」の作成と公開

HORINO Rieko

動物疾病対策センター 疫学情報室長 堀野理恵子

平成26年11月13日より動物衛生研究所（動衛研）ホームページ上に新しく「家畜疾病図鑑Web」を公開しましたので、ご紹介いたします。

家畜疾病を知っていただくために

平成22年4月、宮崎県で確認された口蹄疫では、牛に加え我が国で初めて豚も感染し、約30万頭にも及ぶ家畜の処分や家畜市場の閉鎖、畜産物の輸出停止、地域でのイベント自粛等、社会経済に多大な影響がありました。これを契機に家畜の伝染病への社会的な関心が高まったことから、日本農業新聞社より家畜疾病を読者に紹介するコーナーを設け、畜産農家に病気の注意を喚起したいというご提案をいただきました。当所としても、この機会に家畜の病気について広く関心を持っていただくことは有意義と考え、平成22年11月から、日本農業新聞紙上で「家畜疾病図鑑」として連載が始まりました。当時の疫学情報室長であった佐藤真澄（現病態研究領域長）が企画（疾病、執筆者の選定等）・監修、研究員が執筆し、月1回、第4

水曜日に新聞紙上に記事が掲載されました。平成24年4月からは日本農業新聞の公式HP「e農net」でも「家畜疾病図鑑」のWeb公開が開始され、新聞に掲載された記事が閲覧できるようになりました。

平成26年3月で同紙上で連載は終了しましたが、畜産関係者や一般の皆さまにご理解いただきたい家畜疾病は数多く残されていました。そこで、動衛研ホームページ上に新たに「家畜疾病図鑑Web」を作成し、連載を継続することとしました。その際、日本農業新聞社のご厚意により、過去に紙上に連載された疾病についても掲載をご承諾いただきました。

探しやすいインデックス

動衛研ホームページのピックアップ欄にある「家畜疾病図鑑Web」をクリックするとトップページに移ります。（図1）。タイトル下にある「家畜（法定）伝染病」、「届出伝染病」、「その他」、をクリックすると疾病のインデックスが表示されます。また、サイドメニュー（左）の目次に「対象家畜別に探す」、「病因別に探す」、「五十音順に探す」、「掲載順に探す」を設けましたので、それぞれのインデックスからも疾病名を探することができます。疾病名をクリックすると個々の疾病についてのページが表示されます。

コンパクトでわかりやすい内容

法定伝染病、届出伝染病を中心に、日本の畜産業にとって重要な疾病について一般の方にも理解しやすいように紹介しています。各疾病ページには、短時間で読める量を目安に、疾病の特徴（①法定・届出等の別と原因、対象動物、②症状、病変の特徴、③伝播と疫学）と対策（①予防・治療法、②その他注意事項）についてコンパクトにまとめ、写真とともに掲載しています（図2）。ページ右上には「家畜伝染病」、「届出伝染病」、「その他」のアイコンを設置しました。タイトル下の対象家畜について、法定伝染病と届出伝染病では「家畜伝染病予防法」の対象家畜、その他疾病については



図1. 家畜疾病図鑑Webのトップ画面

特集「家畜疾病図鑑 Web」の作成と公開



図 2. 疾病記事の例

罹患する家畜を記載し、各家畜のアイコンでわかりやすく表示しました。さらに疾病について詳しく知りたい場合は、ページ下方にある「参考情報」から関連する家畜監視伝染病のページへ行くことができます。

現在公開している記事は、平成 22 年 11 月から 26 年 3 月まで、日本農業新聞に連載された 41 疾病と新記事の「牛流行熱」です(表)。「牛流行熱」の執筆はウイルス・疫学研究領域の早山陽子主任研究員が担当

表. これまでに連載された 42 疾病

	タイトル	執筆者
1	牛疫	木村久美子
2	ボツリヌス症	大崎 慎人
3	ニューカッスル病	真瀬 昌司
4	オーエスキー病	鈴木 亨
5	ヨーネ病	永田 礼子
6	トキソプラズマ病	松林 誠
7	炭疽	玉村 雪乃
8	牛ウイルス性下痢・粘膜病	亀山健一郎
9	豚丹毒	小川 洋介
10	伝達性海綿状脳症	舩甚賢太郎
11	牛白血病	鈴木 孝子
12	ダウナー牛症候群	菊 佳男
13	馬伝染性貧血	小西美佐子
14	鳥インフルエンザ	内田 裕子
15	豚繁殖・呼吸障害症候群	井関 博
16	ネオスポラ症	八田 岳士
17	牛乳頭腫症	畠間 真一
18	ブルセラ病	星野尾歌織
19	腐蛆病	高松 大輔
20	野兎病	三上 修
21	マレック病	山本 佑

し、写真は沖縄県からご提供いただきました。今後は月 1 回、第 2 水曜日に新しい記事を掲載していく予定です。

とにかく一度アクセスを!!

平成 22 年 4 月の口蹄疫、同年 11 月の高病原性鳥インフルエンザの発生を踏まえて平成 23 年に「家畜伝染病予防法」が改正されました。これに基づき「飼養衛生管理基準」も大きく見直しが行われ、日常的な衛生対策の強化が求められています。家畜疾病には、水際検疫により海外からの侵入を防いでいるものや、法定伝染病や届出伝染病には指定されていないが、生産性に大きな影響を与えるものもあります。畜産関係者をはじめとする皆さまには、「発生の予防」や「早期発見・連絡」に努めていただき、そのためには、家畜の病気や原因を正しく理解して、日頃から消毒等の衛生対策や飼養管理を適切に実施していただくことが大切です。多くの皆さまに「家畜疾病図鑑 Web」をご利用いただき、家畜の病気を理解する一助になれば幸いです。

「家畜疾病図鑑 Web」URL

http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_dictionary/index.html

	タイトル	執筆者
22	白筋症	高橋 雄治
23	口蹄疫	森岡 一樹
24	牛カンピロバクター症	岩田 剛敏
25	ワラビ中毒	嶋田 伸明
26	日本脳炎	白藤 浩明
27	アカバネ病	梁瀬 徹
28	破傷風	大倉 正稔
29	ウエストナイルウイルス感染症	金平 克史
30	豚インフルエンザ	竹前 喜洋
31	狂犬病	山本 健久
32	伝染性ファブリキウス嚢病	生澤 充隆
33	萎縮性鼻炎	上野 勇一
34	豚コレラ	大橋 誠一
35	馬バラチフス	楠本 正博
36	大脳皮質壊死症	尾澤 知美
37	結核病	川治 聡子
38	鳥アスペルギルス症	花房 泰子
39	ヘンドラウイルス感染症	山田 学
40	牛肺疫	宗田 吉宏
41	豚赤痢	江口 正浩
42	牛流行熱	早山 陽子